

国土交通省九州地方整備局長 鈴木弘之 様
熊本県知事 蒲島郁夫 様

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 緒方 俊一郎
共同代表 岐部 明廣

「球磨川治水対策協議会」の丁寧な説明を求める要請書

私たちは、2015年8月12日付で「球磨川治水対策協議会に関する要請書」を貴職あてに提出しました。その後、第3回会議が11月9日に開かれ、貴職は洪水対策の検討対象としていた9つの具体策のうち、引堤と河道掘削、堤防強化の3案の概要を提示しました。

治水対策案の検討対象とする流量は、人吉地点では「検討する場で積み上げた対策を実施した後も毎秒5300m³の洪水が流下。河道の流下能力は毎秒4000m³」としています。つまり、毎秒1300m³の対策が新たに必要であるとしており、これまでの「検討する場」では示さなかった大規模な治水対策案を提示しました。

しかし、これまでの実績の人吉での最大流量は、昭和40年洪水で毎秒5000m³、昭和57年洪水で5400m³です。ところが「検討する場で積み上げた対策を実施した後流下する流量」が、昭和40年洪水で毎秒5100m³、昭和57年洪水で5300m³となっており、実績流量とほとんど変わっておらず、私達としては全く理解できません。

引堤案は、人吉地区で球磨川第4橋梁から同第2橋梁付近までの約1.4kmにおいて、川幅を最大で110m広げるとしています。右岸側のみの場合は家屋約570戸や温泉、旅館、病院などが移転対象となり、人吉橋を含め13橋の橋梁の架け替えまたは継ぎ足しが必要としています。対象区間は人吉市の中心街を含んでおり、松田知良人吉市副市長は「対象区間には家屋や温泉、指定文化財などがあり、相当な影響が出るのでは」と実現性を危ぐしました（人吉新聞参照）。「かなりの補償になるのでは」「河川環境に配慮してほしい」等の意見も出されました（熊日新聞参照）。驚くのが、今回の目標流量は毎秒5300m³であるにもかかわらず、「川辺川ダムを考える住民討論集会」で提示した目標流量・毎秒7000m³と同じ規模の引堤となっていることです。改修後のイメージ写真も毎秒7000m³のときと同じです。目標とする流量が毎秒1700m³も違うので、当然幅幅の幅も半分以下で済むはずですが、これも、人吉に洪水の不安をあおるものであり、強く抗議するものです。

また、河道掘削等は人吉地区では軟岩（人吉層）の露出面積が大幅に増加するため検討対象外としました。「河床掘削により人吉層が露出し、河川景観の悪化が懸念される」として、「川辺川ダムを考える住民討論集会」で提示したフォトモンタージュ写真を提示しました。これも、人吉に洪水の不安をあおるものです。

堤防強化では、河道水位が計画水位を超過する区間をかさ上げの対象としています。私達が主張してきた鋼矢板による堤防補強（破堤しにくい堤防）は、「決壊しない堤防は技術的に確立されていない」として検討からはずしています。その根拠となる資料に、足羽川洪水（H16.7）や、天竜川洪水（H18.7）の写真を挙げていますが、写真で見る限り決壊したのはいずれも土堤だと思われます。うねりの事例で出した筑後川（平成24年7月14日）では、同地点で破堤したのでしょうか。また、アメリカ陸軍工兵隊の写真（ハリケーンカトリナ）に至っては、根入れ不足のむき出しのシートパイルがこわれているとしか思われぬ例であり、私たちが主張している鋼矢板による堤防強化案とは全く異なるものです。

以上の点を踏まえ、今後の「球磨川治水対策協議会」で、下記の6点について分かりやすく丁寧な説明をされることを強く要請します。

記

1. なぜ、実績の最大流量と「検討する場で積み上げた対策を実施した後流下する流量」がほとんど同じ値なのか、分かりやすく説明をすること。
2. 「検討する場で積み上げた対策」とは、「直ちに実施する対策」のみなのか、それとも「追加して実施する対策」も含めるのか、分かりやすく説明をすること。
3. 「検討する場で積み上げた対策を実施した後流下する流量」（人吉地点）が、昭和40年洪水で毎秒5100 m^3 、昭和57年洪水で5300 m^3 となっているが、「検討する場で積み上げた対策」でどれだけ低減できたのか、分かりやすく説明をすること。また、個別の対策毎の洪水調節流量を明らかにすること。
4. 引提案では、今回の目標流量は毎秒5300 m^3 （人吉地点）であるのに、住民討論集会で提示した目標流量・毎秒7000 m^3 と同じ規模の改修後のイメージ写真を出している。目標とする流量が毎秒1700 m^3 も違うので、当然拡幅の幅も半分以下で済むはずである。この点について分かりやすく説明をすること。
5. 「河床掘削により人吉層が露出すると河川景観の悪化が懸念される」として、水の手橋から中川原を見た軟岩が露出した状態を予想したフォトモンタージュ写真を提示しているが、同区間で何メートル掘削の必要があるのか。また同区間で人吉層は何メートル下に分布しているのか、分かりやすく説明をすること。
6. 堤防改修後、これまで人吉で堤防が決壊した事例はあるのか。これまで国内で、コンクリートの特殊堤で堤防が決壊した事例はあるのか。これまで国内で、鋼矢板を用いた堤防強化策で堤防が決壊した事例はあるのか。分かりやすく説明をすること。

【参考資料】



国交省資料「球磨川水系の治水について」(平成13年10月)の引提案。毎秒7000 m^3 の洪水を目標にしている



国交省が今回提示した引提案。毎秒5300 m^3 を目標流量としているのに、毎秒7000 m^3 を目標としていた住民討論集會時と同じ規模の改修後のイメージ写真を提示している

以上

2016年1月18日

国土交通省九州地方整備局長 鈴木弘之 様
熊本県知事 蒲島郁夫 様

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 緒方 俊一郎
共同代表 岐部 明廣

「球磨川治水対策協議会」開催通知に関する抗議文

球磨川治水対策協議会の第4回会議が1月19日に開催されることを、私たちはたまたま、県関係者から情報を得ることができました。

これまで私達は、球磨川治水対策協議会や「ダムによらない治水を検討する場」の開催について、住民へ直接連絡するように度々要望してきました。しかし貴職は4日前に記者発表をするのみで、これまで住民には全く通知はありませんでした。それでも事前に報道されたり、記者が直接私たちに開催日時を知らせてくれた場合もあり、何とか事前に開催を知ることができた時には、傍聴することができました。

ところが最近では、報道機関の関心も低くなり、事前の報道もなく、私たちは球磨川治水対策協議会の開催を事前に知ることが全くできなくなり、傍聴もできなくなりました。今回も「一般の方の傍聴も可能です」とのことですが、このような状況では一般の人が傍聴することはできません。また、傍聴人数も、以前は20名認めていたのが、今回は10名と、半減しています。

以前、球磨川流域で建設省（当時）や国土交通省が開催していた「川辺川ダム説明会」や「川辺川ダムを考える住民討論集会」、「川づくり報告会」等では、国土交通省はチラシや新聞広告まで用いて、流域住民に広く開催と参加を呼びかけていました。「住民参加」の河川法を精神を考えると、当然、球磨川治水対策協議会の開催も広く呼びかける必要があります。

現状を考えると、貴職は住民にできるだけ知らせずに球磨川治水対策協議会を開催しようとしていると言われても仕方ありません。球磨川治水対策協議会の開催を一般住民に知らせないことに強く抗議するとともに、以下3点について強く要請するものです。

記

1. 「球磨川治水対策協議会」の開催（日時、場所等）を、少なくとも10日前には住民団体に直接知らせること。
2. 「球磨川治水対策協議会」の開催を、チラシや新聞広告等を用いて球磨川流域住民に広く知らせ、参加を呼びかけること。
3. 希望する住民の傍聴は全て認めること。

以上